

実践テーマ： 「小規模校における体験的活動を通して、集団活動を活性化し、自主的・実践的な態度を育てる」

日 立 市 立 東 小 沢 小 学 校

1 はじめに

本校は、久慈川のほとりにあり、周囲に水田が広がる自然豊かな地域に位置している。全校生徒21名の小規模校であるが、学年の枠を超えた児童同士の交流や、地域住民との関わりが深く、児童たちは様々な交流や体験活動を通して、学習活動を必要感・必然性のあるものとし、自主的・実践的な態度の育成に取り組んでいる。また、5年前の創立100周年記念を起に、創作和太鼓「東小沢『菜風蓮』」を発足した。東小沢地域の豊かな自然や農作業などの風景を盛り込み、全児童が愉快的な踊りと太鼓で表現するオリジナルのものであり、本校の新たな伝統となっている。



2 資料

(1) 実践の内容

ア 東小沢っ子タイム（ロングの昼休み）の取り組みについて

各クラスで、みんなが楽しく活動できるような遊びを工夫している。複式学級のため、上級生は、下級生のことを思いやった遊びの内容をよく話し合っている。

イ 東小沢っ子カップの取り組みについて

月1回、ロングの昼休みを活用して、計画委員会の児童を中心に全校で活動している。縦割り班を作り、カルタ大会や校内かくれんぼなどを行い、カルタ大会では、優勝したチームに優勝カップを贈呈している。

ウ 高齢者施設との交流について

近隣の高齢者施設の利用者との交流の場を設けている。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、学習で作成したものを届ける活動を行い、ガラス越しの交流を行った。

エ 創作和太鼓について

創作和太鼓では、ささら・小太鼓・大太鼓とパートに分かれて全児童が精一杯演奏している。例年学年末に引き継ぎを行っており、上級生から下級生へ、各パートのリズムや打ち方の姿勢などを教える場を設定している。この活動を通して、伝統を引き継ぐ気持ちが養われている。上級生は指導する側になるため、自主的に練習を重ねている。下級生も、引き継いだことを実践し、更に上手になろうという気持ちで自主的に練習に励んでいる。

3 成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の中での学校生活でありながらも、小規模校のよさを生かし、学年の枠を超えて、互いに協力しながら意欲的に取り組むことができた。上級生の姿を見ている下級生は、「次は自分たちが中心となって活動するんだ。」という気持ちを持ち、自主性を育むことにつながった。上級生も全員が役割を持ち、自ら行動しなければという意識を高くもつことができた。課題は、年々児童数が減ってきている状況から、活動内容の見直しや規模の縮小をしなければならないことだ。児童の意欲を高め、充実感や達成感を存分に味わえるような工夫を凝らした活動を実践していきたい。